

第五場 ●—— 地域とまちづくり

地域は、日常生活を営み、人生の大半を過ごす生活ステージです。みんなが安心して暮らすことができ、活動することができる良好な環境を築くことは、住民共通の願いです。だからこそ、地域は、一人ひとりの“まちづくり”への参画と学習の機会・きっかけを提供する場としても重要です。



[解説]

「人生の大半を暮らす地域だから」

少子高齢社会を迎え、高齢化率が3人に1人という地域も見られます。お互いが相手を思いやり、声を掛け合い、支え合うことのできる、心の通い合う地域は、誰にもやさしいまちを築くことになります。日ごろのコミュニケーションが、地域ぐるみで子どもを見守り、育てる環境を築きます。また、ポイ捨てなどの公共マナー違反や犯罪を抑止する、隙を見せない地域環境を築きます。

「地域は社会とまちづくりに参画する第一次圏域」

地域は、住民が社会に参画する第一次圏域とも言えます。私たちは、すでに身近な生活の場で、ごみ減量やリサイクル活動、美化活動など日常習慣として社会貢献活動に参加しています。また、地域には青少年教育、交通安全などへの取り組み機会も多くあります。受動的に与えられる機会だけではなく、自発的な活動の芽が話し合いから生まれることも少なくありません。そのようなきっかけが多く持てるような地域の環境を、“協働”で実現していく必要があります。

「地域に学び、地域に活かす」

住民一人ひとりが地域で学習し、学習したことを地域のまちづくりに活かすことのできる、そんな環境を地域に育てていくことが必要です。また、住民がライフステージにあわせ、地域活動に参画できる環境が求められます。例えば、退職後の地域へのソフトランディング(ゆるやかな着地)の仕組みは、地域に戻ったとき、社会参画の手立てが見つからない人のために、重要な取り組みです。意識を行動に結び付けられるように、一人ひとりが、活動や学習のきっかけを見つけることのできる仕組みを協働して築いていくことが必要です。

「みんなが参画する“協働のまちづくり”社会」

質の高い多様なライフスタイルや精神的な豊かさを追求し、享受できる日常環境の実現は、住民一人ひとりの願いです。そういった環境は、与えられるのではなく、市民一人ひとりの自覚と行動によって醸成されることも忘れてはなりません。

一方、地域は、だれもがまちづくりに参画することのできる、開かれたステージでなくてはなりません。性別・年齢・障害の有無、そして国籍を越えて、ともに目標を共有し、まちづくりに参画できる地域社会が求められます。それぞれの自覚と役割分担のもとに、協働してこれに取り組むことが必要です。